

走れるか 信仰の道

西川の 推進委 六十里越街道を調査

内陸と庄内を結ぶ出羽三山参詣の古道「六十里越街道」の魅力を広くPRしようとして、西川町の観光関係団体でつくる六十里越街道保存推進委員会(志田靖彦委員長)は、山道を走るトレイルランニングなどの大会開催に向けた可能性を探る調査を始めた。来年度の事業化を目指し、「信仰の道」として参詣者を支えてきた街道を全国に発信していく。

来年度の事業化を検討

昨年、出羽三山地域が文化庁の「日本遺産」に認定されたことを受け、1200年の歴史を有する六十里越街道を多くの人たちに知ってもらい、活用していくことが同委員会が企画した。全国各地の地域活性化に取り組むNPO法人元気・まちネット(東京都、矢口正武代表理事)の協力を得て、西川町本道寺から旧櫛引町松根までの約40キロ区間を対象にしたイベントを立案し

ていく計画だ。

先月16日に同法人の矢口代表理事ら5人が来県し、約40キロ区間のうち、難所とされる西川町志津から鶴岡市田麦俣までの10キロ区間で5時間かけて歩いた。トレイルランニングのトップ選

手も参加して往復20キロを走破し、大会開催が可能かどうか調査した。

関係者からは「ブナの原生林の中を走るコースもあり、旧街道を走ることできる。羽三山の精神文化にも触れることができる。他の場所にはない特徴があり、走るコースに最適」などの声が上がったという。



今月9日に鶴岡市田麦俣から細越峠までを歩くイベント「六十里越街道『生まれかわりの旅』巡礼ラリー」で中間報告を行い、12月以降に調査結果をまとめて来年度の事業化につなげる。